近代都市化への芽を育てる

総額、三億五千万円に
二万人の新年度予算

▽ ▽ ▽ ▽ △ △ △ △ △

住民の暮らしに直結する町の新年度予算が、三月定例町議会で決まった。一般会計、特別会計をふくめて三億五千四百万円の予算を組み、積極的に近代都市化への芽を育てる事業のあらましを紹介しよう。

新年度予算の総額は三億五千四百万円と前年度に続いて二度目の三億円台になった。前年度当初予算に比べると百五十万円増で〇・四パーセント上回った。伸びが少ないのは、特別会計の上水道建設事業が、四ケ年の拡張計画を昭和四十年度で終了し、廃止になったためで、前年度の当初予算総額からこの会計分を除き、比べると三千五百五十万円増で一〇パーセントが実質的には上回ったことになる。

このうち一般会計は二億四千二百万円で、前年度比二・五パーセント増、六百万円がふえた。特別会計は上水道事業が一千七百九十万円増の六千百万円で施設拡張後の運営を行なう。国保事業では五千百二十六万円で来年一月から実施する世帯員の七割給付改善の医療費を組み込んで二九パーセント増と大巾にふえた。

予算編成に当っては、数年前から「住みよい町づくり」を主目標にして各事業を織り込んできた。新年度予算では、住民の暮らしを守る行政をさらに強化するため、「住民の生活に直結した事業」を中心に、行政措置の運れている事業と継続事業を重点的に編成して近代都市化への芽を育てる。

これらの財源（歳入）のおもなものは、町税収入が一億九千百八十万円で歳入の七九・二パーセントを占めている。このほか、国・府支出金一千三百四十六万円、前年度繰越金一千一百十三万円、町債（借入金）一千三百五十万円がついている。

町税は不況を反映して伸びなやんでいるが、税収の伸びを前年度の半分の八パーセントを見込んでいる。税の住民負担は、町民税一人当たり三千六百六十円、固定資産税一世帯当たり五千七百円と前年度と大差はない。

一般会計を財政性質別にみると人件費が九千三十五万円、三七・三パーセントとなり、次に都環境衛生組合や乙訓中学校の負担金など委託補助費等四千五百九十三万円と一九パーセント、事務費などの物件費四千一百三十一万円と一七・一パーセント、普通建設事業費が三千六百九十三万円で一五・三パーセント、公債費その他を合わせたものが一一・三パーセントを占めている。

【保健衛生】住民の健康を守るため三百六十三万円を組み、各種伝染病の予防接種を例年どおり行なう。新年度から母子保健費を新設妊婦と乳児の健康を守るなど保健行政に前年度より百九十七万円増の八百二十八万円を投入する。

清掃事業には二千八百五十一万円を投じるが、郡ゴミ・し尿処理場（大山崎村）の負担金千八百七十万円が大きく占めている。

第2向陽小学校の増築現場

第二向陽小学校を開校
常備消防への準備

【教育振興】新学期から開校した第二向陽小学校は、町が力を入れている事業のひとつで、当初の予定より、同校通学区内の住宅造成運動場の整地や校内を横切る排水管の布設、周囲の道路修備などを合わせて五百五十万円で工事を行い、体育館を除く施設の大半を仕上げる。

また、従来から続けている修学旅行、遠足、臨海学校などの経費補助は例年どおり計上、義務教育における保護者負担を軽くする。

【消防】住宅地化する町を火災から守るため、消防専任職員を六名増員して、予算四百五十三万円を計上、常備消防への準備をはじめた。防火査察に重点を置き、火災の発生を未然に防ぐため防火パトロールを強化する。機動力は消防車七台を備えているので不足はないが、住宅団地が増えるので水利面を充実させるため、貯水槽を四ケ所に二百五十万円で新設する。

郡ゴミ、し尿処理場（大山崎村）

国保の給付改善
石田川の改修を継続

【社会福祉】町立保育所に前年度より百十四万円増の八百九十九万円をかけ、施設や備品を充実させ幼児保育に万全を期する。

国保事業は大部分の市町村で赤字をかかえて、全国的な問題となっている。本町も赤字を出さずに運営してきたが内容は苦しく、一般会計からの繰入金百五十万円と前年度繰越金二百五十万円を除く単年度実質収支では約四百万円の赤字になる。政府は来年九月から給付改善を行ない、世帯員給付の率を五〇パーセントから七〇パーセントと世帯主と同率に引き上げるが、本町では、これに先がけて来年一月から実施することになり、この分の療養給付費増加を二百八十八万円見込んでいる。また精神衛生法に該当する精神病患者の療養費個人負担は新年度からなくなる。なお、国保税は据え置く。

【土木事業】近代都市化への一環として、居住環境の整備を重点的に推し進める。道路関係では、交通の安全を目ざした改良や舗装で第二向陽小学校の児童通学路を中心に工事を進める。舗装は国鉄向日町駅北―東海電極（株）―小林住宅団地の西端間、寺戸の野村証券（株）寮―第二向陽小学校間、寮本の国鉄地下道西―小林住宅団地間を四百三十万円で舗装する。道路拡巾に三百五十万円を計上、第二向陽小学校―物集女間、上植野の野畑米穀店前―府道間の工事を行なう。また、道路補修に二百万円をかけ、舗装の補修や砂利道を整備する。

河川費は前年度より四百十七万円増の五百四十一万円で、第二向陽小学校の流末処理や部落内水路などの改修工事を行なう。

× × ×

継続事業の石田川都市下水路の第四期改修を寺戸公民館―団事務所間二四〇メートルと寮本の国鉄前田地下道から西へ二〇〇メートル間をU型にコンクリートで固め流れやすく、衛生的にする改修工事費五百六十二万円を組んでいる。

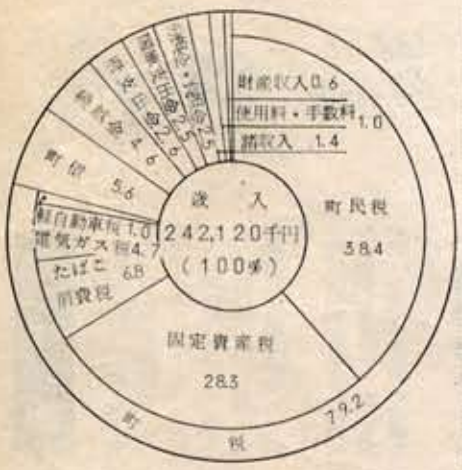
※写真は改修する石田川（寺戸）

【上水道事業】上水道の施設拡張は、給水人口三万人を目標にする昭和三十七年度から四ケ年計画で行ない、昭和四十年度で終了したが、発展をつづける町として近い将来に三万人の給水人口をオーバーすることが予想されるので、将来の事業に備えての準備年度として、約四百万円を積み立てるなど昭和四十二年度からの準備をはじめた。

【庁舎建設の準備】現庁舎は昭和三年に建築されたもので、相当に老朽し、その上、狭く小学校に間借りしている状態です。遅ればせながら、近代的な庁舎を建設する計画を立て、新年度は準備期間として、基本構想を練り、設計を委託する費用二百二十七万円を計上している。建設は昭和四十二年度から予定しているが、財源などの都合で延期されることもある。

昭和41年度一般会計予算

科目	予算額
一歳入一	
	千円
町税	191,843
（町民税）	92,924）
（固定資産税）	68,555）
（軽自動車税）	2,387）
（たばこ消費税）	16,477）
（電気ガス税）	11,498）
（旧法による税）	2）
分担金・負担金	6,076
使用料・手数料	2,431
国庫支出金	6,108
府支出金	6,348
財産収入	1,282
繰越金	11,126
諸収入	3,406
町債	13,500
歳入合計	242,120
一歳出一	
議会費	7,420
総務費	54,945
民生費	20,833
衛生費	36,783
労働費	2,176
農林水産業費	4,339
商工費	3,381
土木費	32,238
消防費	12,087
教育費	47,551
公債費	19,367
予備費	1,000
歳出合計	242,120



昭和41年度特別会計予算

上水道事業

科目	予算額
一歳入一	
	千円
使用料・手数料	40,866
財産収入	314
繰越金	5,148
分担金・負担金	4,080
諸収入	10,600
歳入合計	61,008
一歳出一	
上水道管理費	42,148
財産費	4,312
公債費	13,848
上水道布設費	500
予備費	200
歳出合計	61,008

国民健康保険事業

科目	予算額
一歳入一	
国民健康保険税	20,195
使用料・手数料	1
国庫支出金	26,998
府支出金	1
財産収入	4
繰入金	1,500
繰越金	2,500
諸収入	58
歳入合計	51,257
一歳出一	
総務費	3,019
保険給付費	45,244
保健施設費	1,639
諸支出金	5
予備費	1,350
歳出合計	51,257

広報向日町

発行所
向日町役場
京都府乙訓郡向日町
大字向日小字南山3
電話京都(92)3111―5
編集・向日町役場総務課

町の人口

5月1日現在

男	11,018人
女	11,025人
計	22,043人
世帯数	5,853

◇

物集女	1,487人
寺戸	11,079人
森本	2,764人
鶏冠井	2,123人
西向日	1,240人
上植野	2,026人
向日	1,324人